

令和 2 年度新規
令和 7 年度第1回計画変更

県 営 た め 池 等 整 備 事 業
(小規模)

土 地 改 良 事 業 変 更 計 画 書

堂 迫 池 地 区

広 島 県

第1章 目 的	1	第3節 老朽ため池改修計画	10
		1. 洪水吐改修計画	11
		2. 堤体補強計画	12
第2章 地域及び地積	1	第5章 主要工事計画	13
第1節 地 域	1	第1節 老朽ため池改修施設	13
第2節 地 積	1	1. 貯水池	13
		2. 堤体補強施設	13
第3章 現 況	2	第6章 附帯工事計画	13
第1節 気象及び海象	2	第7章 工事の着手及び完了の予定時期	14
1. 一般気象	2	第8章 環境との調和への配慮	15
2. 特殊気象	2	第9章 事業費の総額及び内訳	15
3. 海 象	3	1. 総括表	15
		2. 工事費内訳表	16
第2節 土地状況	3	第10章 効 用	17
1. 地形、土壌及び侵食の程度	3	第11章 関連する事業	17
2. 土地利用の状況	4	第12章 現況 計画図面	17
3. 土地所有の状況	4		
第3節 水利状況	5		
1. 用水状況	5		
第4節 地域環境の概況	6		
第4章 一般計画	7		
第1節 事業計画の要旨	7		
1. 要 旨	7		
2. 事業別面積	8		
第2節 用水計画	8		
1. 計画基準年	8		
2. 計画かんがい方式	8		
3. 計画用水系統	8		
4. 計画用水量	8		
5. 水源計画	9		

第1章 目 的

(1) 必 要 性

本ため池は、広島県庄原市水越町堂迫一帯の農地をかんがいするため池である。平成29年度県営ため池等整備事業詳細調査により、劣化等による洪水吐施設の構造上欠陥及び地震時における堤体上下流法面の安定性欠如という結果となっており、洪水時の堤体決壊が懸念されるなど防災施設としての安全性が低下している。

よって、本ため池の安全性を回復させるため、早急な改修が必要である。また、この改修に併せて、ため池が持つ本来の機能である農業用水の確保も図る。

(2) 緊 急 性

平成29年度県営ため池等整備事業詳細調査により、本ため池は劣化等による洪水吐施設の構造上の欠陥とともに、地震時における堤体上下流法面の安定性が確保されていない状態となっており、堤体決壊の危険にさらされた状態である。

よって、受益農家及びため池下流側住民の安全安心の確保と、ため池決壊による被害を未然に防止するため、緊急な耐震対策工事を実施しなければならない。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事業名	地 域
県営ため池等整備事業	広島県庄原市水越町堂迫

2 地 積

(令和 元 年 8)
(令和 7 年 9 月現在) (第2表)

事業名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	樹園地(ha)	原野(ha)	山林(ha)	道水路敷 (ha)	その他 (ha)	計	備 考
	市町村名									
県営ため池等整備事業	庄原市	11.5	—	—	—	—	—	—	11.5	
	計	11.5							11.5	

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1 一般気象

(第3表-1)

観測所名 庄原		かんがい期		非かんがい期		計又は平均	備 考
観測期間 1961年 ~ 2019年		5 月 ~ 9 月		10 月 ~ 4 月			
平均気温		21.0 ℃		6.2 ℃		12.4 ℃	最近10カ年 12.9 ℃
降水量	平均	893.8 mm		593.5 mm		1,487.3 mm	最近10カ年 1,586.3 mm
	基準年	810.0 mm		471.0 mm		1,281.0 mm	1988 年
降水日数	平均	56 日		79 日		135 日	観測期間 1976年 ~ 2019年
	基準年	48 日		78 日		126 日	1988 年
根雪期間		- 月 - 日 ~ - 月 - 日 - 日間					- 月 - 旬
無霜期間		- 月 - 日 ~ - 月 - 日 - 日間					
最多風向		西北西		最大風速 (風向)		22.9 m/s (南南西)	最多風向発生時期 11月 ~ 5月 最大風速発生年月日 2012 年 4 月 3 日

2 特殊気象

(第3表-2)

観測所名 庄原	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備 考
	数量 mm	年月日	発生 確率	数量 mm	年月日	発生 確率	数量 mm	年月日	発生 確率	数量 mm	年月日	発生 確率	数量 mm	年月日	発生 確率	
観測期間 S.26 年 ~ H.29 年																
最大日雨量 (mm)	206.0	S47.7.10	338.8	193.0	S40.6.19	163.5	151.0	S49.10.1	18.5	147.0	S58.7.23	15.3	142.0	H22.6.26	12.2	
最大時間雨量 (mm)	64.0	H10.8.22	32.7	60.0	H22.7.16	24.0	56.0	H12.8.17	17.5	55.0	S53.9.15	16.2	50.0	H11.9.6	10.9	S51~H29(観測期間)
最大4時間雨量 (mm)	102.0	S53.9.15	30.9	93.0	S58.7.23	16.3	91.0	H22.6.26	14.2	90.0	H11.9.6	13.3	89.0	H26.8.6	12.4	S51~H29(観測期間)
最大連続雨量 (mm)		S26.7.16 ~7.26	-		S27.9.14 ~9.22	-		S28.7.16 ~7.23	-		S29.9.9 ~9.18	-		S30.3.23 ~3.30	-	
最大連続干天日数 (日)	42	S53.8.4 ~9.14	86.5	40	S29.10.18 ~11.26	54.0	40	H18.10.2 ~11.10	54.0	35	H16.1.1 ~2.4	17.7	34	S61.1.11 ~2.13	14.4	

3 海 象

該当なし

(第3表-3)

観測所名		既往最高潮位	さく望平均満潮位	上下弦平均満潮位	平均潮位	上下弦平均干潮位	さく望平均干潮位	既往最低潮位		備考
観測期間										
実測値	()									

第2節 土地状況

1 地形、土壌及び侵食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目	田						畑						その他		受益地標高(m)		備考			
		1/1,000以下	1/1,000~1/100	1/100~1/20	1/20~1/11.5	1/11.5以上	計	3°以下	3°~8°	8°~15°			15°~20°	20°以上	計	最高	最低				
等県整備ため池	傾斜区分									8°~10°	10°~15°	8°~15°									
合計	面積(ha)			11.5			11.5											309 m	194 m		
	比率(%)			100			100														

(第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土 壤 統 区 区 分 一 覧 表										面 積 (ha)			備考	
	土 壤 断 面										事 業 名				
	色	腐食	礫層	酸化沈殿物	土 性				泥炭層, 黒泥層およびグライ層	堆積様式	母材	ため池等整備事業	計		
					表土	下 層 土									
金田	灰褐	なし	なし		1層	2層	3層	...	なし	水積	非固結堆積岩	11.5		11.5	土壌統番号 1315
計														11.5	

2 土地利用の状況

(令和 元 年 8)
(令和 7 年 9 月現在) (第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地						山 林		採 草 放 牧 地 (ha)	原野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考	
		水 田 (ha)		普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その 他 樹 園 地 (ha)	用材林 (ha)						薪炭林 (ha)
		1毛作田	2毛作田以上												
県営ため池等整備事業	庄原市	11.5										11.5			
	計	11.5										11.5			
合 計		11.5										11.5			

3 土地所有の状況

(令和 元 年 8)
(令和 7 年 9 月現在) (第4表-4)

事業名	所有別 区分	50a以下	50a～100a未満	100a以上	計	備 考
		面積 (ha)	11.5			
県営ため池等整備事業	受益者数 (人)	20			20	
	筆 数 (筆)	76			76	
	権 利 関 係	自作及び賃貸借				
	備 考 (関係戸数)	(20)			(20)	

第3節 水利状況

1 用水状況

(1) 用水系統

別紙用水系統図参照

(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延べ 取水量	備考
		20 ha以上		1 ~ 20 ha		1 ha以下		個所	ha	個所	m³/s	個所	m³/s	m³/s	
		個所	ha	個所	ha	個所	ha								
県営ため池等整備事業	貯水池			1	11.5			1	11.5			1	0.04	0.04	
	井堰														
	自然取入口														
	揚水機														
	その他														
	計			1	11.5			1	11.5			1	0.04	0.04	
合計			1	11.5			1	11.5			1	0.04	0.04		

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目 施設名	施設名 又は箇所数	受益面積 (ha)		構造	規模	新設年 又は 更新年	改修を必要 とする理由	備考			
			全体	関係分					管理者	当該施設の築造		河川名
										事業名	経過年数	
県営ため池 等整備事業	貯水池	堂迫池	11.5	11.5	均一型	堤高 8.0 m 堤長 88.0 m	S30年	堤体は下流法尻で漏水が見られ、地震時における堤体上下流とも法面の安定性が確保されていない。また、洪水吐は経年劣化で部分崩壊しており洪水時に氾濫の危険性がある。	庄原市土地改良区	不明	不明	西城川

(3) ため池等施設決壊の場合の被害状況

(第5表-3)

事業名	想定被害面積 (ha)				想定被害額 (千円)						備考
	水田	畑	その他	計	作物	農地	農業用施設	公共施設	家屋その他	計	
合計	11.5	-	20.1	31.6	(15,881) 17,208	(88,676) 112,552	(140,242) 236,754	(0) 675,352	(689,776) 284,248	(934,575) 1,326,114	人命 (32) 22 人

第4節 地域環境の概要

本地域は、庄原市水越町の南端部に位置し、西城川南側の標高194m～309mに広がる農振農用地区域である。

三次市境の山間部から丘陵地に位置し、豊かな自然・田園環境に恵まれている。

地質は、基盤岩は高田流紋岩であり、周辺山地及び丘陵地も、同様の高田流紋岩類が分布している。

堤体部は洪積土層及び沖積土層で構成されている。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1 要 旨

項 目	事業を必要とする理由	改 修 補 強 工 法
取 水 施 設	現況斜樋は木製の堅樋であるが、管理橋・取水部共に老朽化が進行しているため、取水管理時及び維持管理時の安全性の低下及び作業性の低下が著しい。斜樋改修に併せて漏水がみられる底樋も改修する。	斜樋 : VP φ250mm+鉄筋コンクリート巻立 底樋 : HP φ600mm+鉄筋コンクリート巻立
洪 水 吐	現況施設は石張水路のため、経年劣化で部分崩壊しており洪水時に氾濫の危険性がある。また、呑口～下流水路の線形がS字のため、流れが悪い。	(正面越流式洪水吐) 型式:側水路式洪水吐 (2.20m) 堰幅:2.80m
堤 体 また は 基 礎 か ら の 湧 水 状 況	下流法面より漏水あり 漏水量 Q=100.80L/min/100m>60L/min/100m	(傾斜遮水ゾーン型により改修する。) 均一型により改修する。
堤 体	堤体法面は築堤時の急勾配と貯水による洗堀等により安定性を欠いている。また、余裕高不足により、洪水時において越流の可能性はある。	前法面 : 植生+張ブロック工 法勾配 : 上流 1:2.0 下流 1:2.0

2 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用 区分	県 営 た め 池 等 整 備 事 業						備 考
	田 (ha)	普 通 畑 (ha)	放 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	
事業目的 ため池改修	11.5					11.5	
計	11.5					11.5	

第2節 用 水 計 画

1 計画基準年

昭和63年

2 計画かんがい方式

自然流下方式

3 計画用水系統

現況用水系統と同じ

4 計画用水量

(代掻き期)

$$Q = \frac{AM \times q1 + (As - AM) \times q2}{8640 \times (1 - Pn)} = \frac{2.41 \times 140.00 + (11.50 - 2.41) \times 18.00}{8640 \times (1 - 0.15)}$$

$$= 0.0682(\text{m}^3/\text{sec})$$

(普通期)

$$Q = \frac{As \times q2}{8640 \times (1 - Pn)} = \frac{11.50 \times 18.00}{8640 \times (1 - 0.15)}$$

$$= 0.0282(\text{m}^3/\text{sec})$$

5 水源計画

(1) 用水対策

(ア) 貯水池

(第10表-3)

項目 貯水池名	流域面積 (km ²)		かんがい面積 (ha)	純貯水量 (千m ³)	利用貯水量 (千m ³)	利用回数 (回)	最大取水量 (m ³ /s)	備 考
	直 接	間 接						
堂迫池	0.135	-	11.5	(17.4) 16.4	(17.4) 16.4		0.0682	

(イ) 井堰および自然取入 該当なし

(第10表-4)

項目 取水施設名	河川名 (河川指定)	流域面積 (km ²)	かんがい面積 (ha)			取水量 (m ³ /s)		湯水量 (m ³ /s)	備 考
						最 大	平 均		
					計				
-	-	-	-	-	-	-	-	-	

(ウ) 用水路 該当なし

(第10表-6)

項目 名称	か ん が い 面 積 (ha)			最大通水量 (m ³ /s)	延 長 (km)	構 造	備 考
			計				
-	-	-	-	-	-	-	

第3節 ため池改修計画

総括表

名称		堂迫池				位置	広島県庄原市水越町堂迫						
堤		形式	堤高	堤長	堤頂幅	堤体積	総貯水量	有効貯水量	堤頂標高	満水面標高	満水面積	有効貯水量 /総貯水量	
	現況	均一型	8.0 m	88 m	3.2 m	13.2 千m ³	19.4 千m ³	19.4 千m ³	313.38 m	312.27 m	0.60 ha	1.00	
	計画	(傾斜濾水ノーン型) 均一型	(8.8) 8.0 m	88 m	(3.8) 3.6 m	(25.4) 22.0 千m ³	(17.4) 16.4 千m ³	(17.4) 16.4 千m ³	(314.20) 314.07 m	312.27 m	0.60 ha	1.00	
		法面勾配		法面保護工			備考						
	現況	上流 1 : 1.1 下流 1 : 1.2	上流: 土羽 下流: 土羽										
計画	上流 1 : 2.0 下流 1 : 2.0	上流: 土羽+張ブロック 下流: 土羽											
洪水吐		形式	構造	洪水吐能力		越流水深	越流堤長	敷標高	ゲート	計画雨量	流出率	計画洪水量	
	現況	水路流入式	石張り	1.234 m ³ /s		m	m	EL m 312.27	巾 - m 高 - m	mm/hr -	% -	(2.61) m ³ /s 1.23	
	計画	(正面越流式) 側水路式	鉄筋コンクリート	(1.391) 1.499 m ³ /s		(0.45) 0.40 m	(2.2) 2.8 m	EL m (311.67) 311.59	巾 - m 高 - m	mm/hr -	% -	(2.61) m ³ /s 1.50	
取水施設		斜樋又は堅樋			底樋			取水量	地質	基礎処理	仮排水工	流域面積	
		形式	径	長さ	形式	径	長さ						
	現況	堅樋	mm	m									
	計画	木管	不明	3.5m(推定値)	鋼管	200 mm	16.0 (推定値) m	0.040 m ³ /s	-	-	-	0.135 km ²	
	斜樋	mm	m										
	塩ビ管	250	(14.3) 14.4	ヒューム管	600 mm	(31.8) 32.4 m	0.068 m ³ /s	-	-	-	0.135 km ²		

1 洪水吐改修計画

(1) 計画基準雨量

計 画 降 雨	観測機関名	庄原観測所	
	計画基準雨量	既往最大時間雨量 75.0mm/hr	
	計画根拠	A項流量	$Q_p = (1/3.6) \times r_e \times A$ $((1/3.6) \times 57.92 \times 0.135 = 2.172 \text{m}^3/\text{sec})$
		B項流量	$Q_p = (1/3.6) \times 57.53 \times 0.135 = 2.158 \text{m}^3/\text{sec}$ $Q_p = 1.704 \times C \times B \times H_d^{3/2}$ $Q_p = 1.704 \times 0.82 \times 1.90 \times 0.60^{3/2} = 1.234 \text{m}^3/\text{sec}$
	C項流量	$Q_p = (1/3.6) \times r_e \times A$ $((1/3.6) \times 58.07 \times 0.135 = 2.178 \text{m}^3/\text{sec})$ $Q_p = (1/3.6) \times 57.70 \times 0.135 = 2.164 \text{m}^3/\text{sec}$	
	貯留効果算定	$0.135 \text{km}^2 / 0.007 \text{km}^2 = 19 \leq 30$ よって、貯留効果を考慮して設計洪水位を決定する。	

(2) 計画洪水量

集水面積	直接	13.5 ha	合 計
	間接	- ha	
計 画 洪 水 量	計 算 式	$(1/3.6) \times r_e \times A$ (0.65) $f_p = 0.645$ $(0.65 \times 89.34 = 58.07 \text{mm/hr})$ $r_e = f_p \times r = 0.645 \times 89.45 = 57.70 \text{mm/hr}$ $Q_p = (1/3.6) \times r_e \times A$ $((1/3.6) \times 58.07 \times 0.135 = 2.178 \text{m}^3/\text{sec})$ $Q_p = (1/3.6) \times 57.70 \times 0.135 = 2.164 \text{m}^3/\text{sec}$ $(2.178 \times 1.2 = 2.614 \text{m}^3/\text{sec})$ $Q = Q_p \times 1.2 = 2.164 \times 1.2 = 2.597 \text{m}^3/\text{sec}$ $(2.15 \times 2.15 \times 0.449^{3/2} = 1.391 \text{m}^3/\text{sec})$ 貯留効果算定 $Q = 1.499 \text{m}^3/\text{sec}$	

2 堤体補強計画

(1) 法面保護施設

堤体上下流の法面勾配を設計基準で求めた緩勾配とし波の影響を低減する。

また、堤体上流法面は波の這い上がり標高から小段の高さまで張ブロックを施し保護する。

(2) 漏水防止工

(現況堤体の型式は均一型であったが、改修後の型式は傾斜遮水ゾーン型とし、上流側前面に刃金土を埋設することで池内の水を遮水し、漏水を防ぐ。)

現況堤体の型式は均一型であり、改修後の型式も均一型とし、透水性の低いランダム材を用いることで池内の水を遮水し、漏水を防ぐ。

(3) 取水施設改修計画

	斜 樋	底 樋
現況	取水孔径:不明、斜樋管種:木管/管径:不明 現況斜樋は木製の堅樋であるが、管理橋・取水部共に老朽化が進行しているため、 取水管理時及び維持管理時の安全性の低下及び作業性の低下が著しい。	底樋管種:鋼管/管径:200mm 斜樋改修に併せて漏水がみられる底樋も改修する。
計画	取水孔径:150mm、斜樋管種:塩ビ管/管径:250mm	底樋管種:ヒューム管/管径:600mm

第5章 主要工事計画

第1節 老朽ため池改修施設

1 貯水池

(第24表)

名称	堂迫池				位置	広島県庄原市水越町堂迫		
	型式	流域 (km ²)	堤高 (m)	堤長 (m)	堤体積 (m ³)	堤頂幅 (m)	貯水量 (千m ³)	備考
堤 体	(傾斜遮水ゾーン型) 均一型	0.135	(8.8) 8.0	88.0	(25,400) 22,000	(3.80) 3.60	(17.4) 16.4	
	型式	洪水量 (m ³ /s)	規模 (m)	備考	取 水 施 設	型式	取水量 (m ³ /s)	備考
洪 水 吐	(正面越流式) 側水路型	(1.391) 1.499	(2.20) 2.80			塩ビ管	0.0682	

2 堤体補強施設

(1) 法面保護施設

堤体上下流の法面勾配を設計基準で求めた緩勾配とし波の影響を低減する。

また、堤体上流法面は波の這い上がり標高から小段の高さまで張ブロックを施し保護する。

(2) 漏水防止工

(現況堤体の型式は均一型であったが、改修後の型式は傾斜遮水ゾーン型とし、上流側前面に刃金土を埋設することで池内の水を遮水し、漏水を防ぐ。) 現況堤体の型式は均一型であり、改修後の型式も均一型とし、透水性の低いランダム材を用いることで池内の水を遮水し、漏水を防ぐ。

第6章 付帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1 工事の着手及び完了の予定時期

着 手 令 和 2 年 4 月 1 日
 完 了 令 和 (6)
 9 年 3 月 31 日

2 工 程 表

	全 体	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
堤 体 工	(138,000) 194,180		(18,000) -	(96,000) 29,225	(24,000) 90,506	(-) 34,549	(-) 9,900	(-) 30,000
洪水吐工	(10,000) 25,229			(8,000) 3,869	(2,000) 21,360			
取水施設工	(52,000) 53,504			(42,000) 3,447	(10,000) 10,698	(-) 39,359		
測量及び試験費	(18,000) 23,500	(18,000) 12,000	(-) 11,500					
用地買収補償費	(2,000) 2,587		(2,000) 2,141	(-) 92	(-) 92	(-) 92	(-) 100	(-) 70
工 事 雑 費								
計	(220,000) 299,000	(18,000) 12,000	(20,000) 13,641	(146,000) 36,633	(36,000) 122,656	(-) 74,000	(-) 10,000	(-) 30,070
百 分 率	100 %	(8) 4 %	(9) 5 %	(67) 12 %	(16) 41 %	(-) 25 %	(-) 3 %	(-) 10 %

第8章 環境と調和への配慮

環境調査により、工事の影響が懸念される生物として、環境省・県絶滅危惧種及び準絶滅危惧種であるメダカ・ニホンイシガメ・アカハライモリ、環境省特定外来生物ウシガエルが確認された。メダカ・ニホンイシガメ・アカハライモリについて、施工中は池内に仮貯水池を設置し、捕食防止ネットを張り放流する。施工後はネットを取り除きそのまま貯水する。ウシガエルは、水抜き時に下流への影響がないよう網などを利用して捕獲するほか、底樋下流域で浅い水域を作り溺れさせ捕獲するなどの方法で駆除する。

そのほか、地域の特徴を現す種として、ハッチョウトンボ・モリアオガエルが確認された。これらの生物は、下流水田内に生息しており、生息域を維持するためには、本改修においても手を加えない湿地帯を残すことが必要で、改修時に維持管理用水を設置するなどして、湿地を維持する必要がある。

第9章 事業費の総額及び内訳

1 総括表

事業名 区分	県営ため池等整備事業	備 考
工 事 費	(200,000) 千円 272,913	
測 量 試 験 費	(18,000) 23,500	調査試験費 (4,600) 7,100 千円 測量設計費 (3,400) 5,900 千円 実施設計費 (10,000) 10,500 千円
機 械 器 具 費		
用地買収補償費	(2,000) 2,587	
営 繕 費		
実施設計費		
工 事 雑 費		
地 方 事 務 費	(11,000) 14,950	
計	(231,000) 313,950	

2 工事費内訳表

区 分	事 業 量	金 額	単 位 当 り 費 用	備 考
堤 体 工	88.0 m	(138,000)	(1,568,200)	土工 2,738 m ³ × (11,140) 円/m ³ 盛土工 7,767 m ³ × (8,680) 円/m ³ 法面保護工 2,853 m ² × (6,170) 円/m ² 附帯工 1 式 × (6,300,000) 円/式 仮設工 1 式 × (16,200,000) 円/式
		194,180 (30,500) 42,897 (67,400) 94992 (17,600) 24,705 (6,300) 8,918 (16,200) 22,668	2,206,600 円/m	
洪水吐工	(25.9) 51.5 m	(10,000)	(386,100)	土工掘削・盛土 255 m ³ × (3,530) 円/m ³ 水路工 67 m ³ × (117,910) 円/m ³ 仮設工 1 式 × (1,200,000) 円/式
		25,229 (900) 2,211 (7,900) 20,071 (1,200) 2,947	489,900 円/m	
取水施設工	(14.3) 14.4 m	(10,600)	(741,300)	斜樋工 (14.3) m × (293,710) 円/m 緊急放流工 (14.3) m × (363,640) 円 仮設工 1 式 × (1,200,000) 円/式
		10,961 (4,200) 4,357 (5,200) 5,324 (1,200) 1,280	761,200 円/m	
	(31.8) 32.8 m	(41,400)	(1,301,900)	土工掘削・盛土 2,134.0 m ³ × (10,780) 円/m ³ 底樋工 (31.8) m × (427,670) 円/m 仮設工 1 式 × (4,800,000) 円/式
		42,543 (23,000) 23,573 (13,600) 14,002 (4,800) 4,968	1,297,000 円/m	
測量試験費	1 式	(18,000) 23,500 千円		調査業務 (4,600) 千円 7,100 測量業務 (3,400) 千円 5,900 設計業務 (10,000) 千円 10,500
用地買収補償費	1 式	(2,000) 2,587 千円		補償費 (-) 千円 167 用地買収費 (2,000) 千円 2,420
工事雑費	— 式	— 千円		
事業費		(220,000) 299,000 千円		

第10章 効 用

(第27表)

事業名	区 分	年総効果(便益)額		年増加農業所得額		備 考
		(千円)		(千円)		
県営ため池等整備事業	維持管理費節減効果(農業生産)	(△32)	△ 34	(32)	35	
	災害防止効果(農業関係資産)	(10,551)	15,906	(10,551)	11,586	
	災害防止効果(一般資産)	(8,922)	12,336		-	
	災害防止効果(公共資産)	(20,808)	29,310		-	
	計	(40,249)	57,518	(10,583)	11,621	令和7年度単価

(827,071)
 < 参 考 > 総便益額(現在価値化) : 1,531,475 千円

第11章 関 連 す る 事 業

該当なし

第12章 現 況 ・ 計 画 図 面

別紙のとおり